

## 西洋古代文化史特講（1）

### 第一講 古代ギリシアにおける帝国出現 —紀元前 5 世紀の変化—

#### シュンマキア συμμαχία（同盟）型の帝国の出現

アルケー（ἀρχή）：支配

ヘーゲモン（ἡγεμών）：同盟主→ヘーゲモニア：覇権

都市（ポリス πόλις）連合体という形態の維持

同盟都市のアウトノミア（自治 αὐτονομία）とエレウテリア（自由 ἐλευθερία）

同盟主のヘーゲモニア（指導 ἡγεμονία）

同盟共通の戦争への参加義務（条約・誓約に基づく）

同盟会議：多数決・同盟主の影響力

同盟主による戦争指揮と同盟国による兵員提供

同盟軍の主力は同盟主→同盟国部隊への権威と説得・強制

スパルタ兵が少ないという同盟諸国の不満に対するアゲシ  
ラオスの回答（Plut. Ages. 26）

前 418 年のマンティネイアの戦いでスパルタ軍は総兵力  
15,000 名のうち 4,600～4,700 名を動員（Thuc. V. 68）。

陸上では名誉ある左翼を占める（Thuc. V. 67）

ペロポネソス戦争が始まったときアテナイは貢税収入 600 タ  
ラントン、備蓄資金 6000 タラントン、一線級重装歩兵 13,000  
名、二線級重装歩兵 16,000 名、三段櫂船 300 隻を保有して  
いた（Thuc. II. 13）

#### ペルシア戦争による変化

騎兵部隊の創出

海軍の創出

遠征の大規模化と長期化

せいぜい 1 週間程度の遠征からポテイダイア遠征のように 3  
年半に及ぶ（前 432 年春～前 429 年冬）遠征へ

前 450/49 年のキモーンのキプロス遠征は 200 隻の艦隊を

動員 (Thuc. I. 112)

1 隻 200 名 × 200 隻 = 40,000 名 (乗組員・艦上戦闘員)

補給の組織化の必要

補給部隊の随伴 (近代)

現地調達・地方市場に依存 (古代)

ミストス (手当  $\mu\iota\sigma\theta\acute{o}\varsigma$ ) 支給 ← 補給部隊編成の負担

軽減

財務機構編成の必要

同盟国の臨時の負担からポロス (同盟年賦金) の課税へ (Thuc. I 96)

460 タラントンの貢税の導入と同盟金庫の設置と同盟財務官団の創設